

女性のライフステージを“支える”医療 —性差をふまえた実践マネジメント

企画者のことば

大須賀智子

近年、性差医療の概念が浸透し、女性特有の疾患や病態を、女性の生理学的特性やライフコースの視点から捉える重要性があらためて認識されるようになってきました。女性特有の疾患や病態には、月経痛や月経異常、更年期障害といった多くの女性が経験しうる症状から、多嚢胞性卵巣症候群(PCOS/PMOS)などの内分泌疾患、子宮内膜症に代表される慢性良性疾患、さらには性分化疾患などの希少疾患に至るまで、極めて多岐にわたる領域が含まれます。

また、妊娠高血圧症候群(HDP)などの周産期合併症が、将来的な高血圧や腎疾患リスクと関連することも明らかになってきました。不妊症治療は女性の健康状態を把握する重要な機会となりうる一方、治療終了後の長期的な健康管理が十分に意識されていない現状も課題です。さらに、AMH 測定の普及やノンメディカルな卵子凍結保存を支援する取り組みなどにより、女性の健康意識やライフプランに影響を与える時代を迎えています。こうした背景から、産婦人科医には、女性を継続的に支える役割がよりいっそう求められています。

このような状況を踏まえ、女性特有の疾患を単に「治療する」対象として捉えるのではなく、思春期、性成熟期、更年期、さらには治療後までを見据え、ライフステージに応じて「支える」マネジメントの視点が不可欠です。

本特集では、月経困難症、子宮内膜症、PCOS/PMOS などの頻度の高い疾患から、性分化疾患をはじめとする希少疾患、周産期合併症に至るまで、幅広い女性特有疾患のマネジメントを取り上げます。加えて、一般若年女性への健康支援や、性差の基礎研究からみえてくる女性医療の可能性にも言及し、女性の健康寿命の延伸と社会的活躍を支援するための実践的視点を提示します。

産婦人科医が担うべき女性特有疾患マネジメントの現在地と今後の方向性について多角的に考察することを、本特集の目的としています。皆様の診療や女性の健康支援にお役立ただけでしたら幸いです。またこの場をお借りしまして、ご執筆いただいた先生方に深く感謝申し上げます。